特定臨床指標５　【リハビリテーション部】

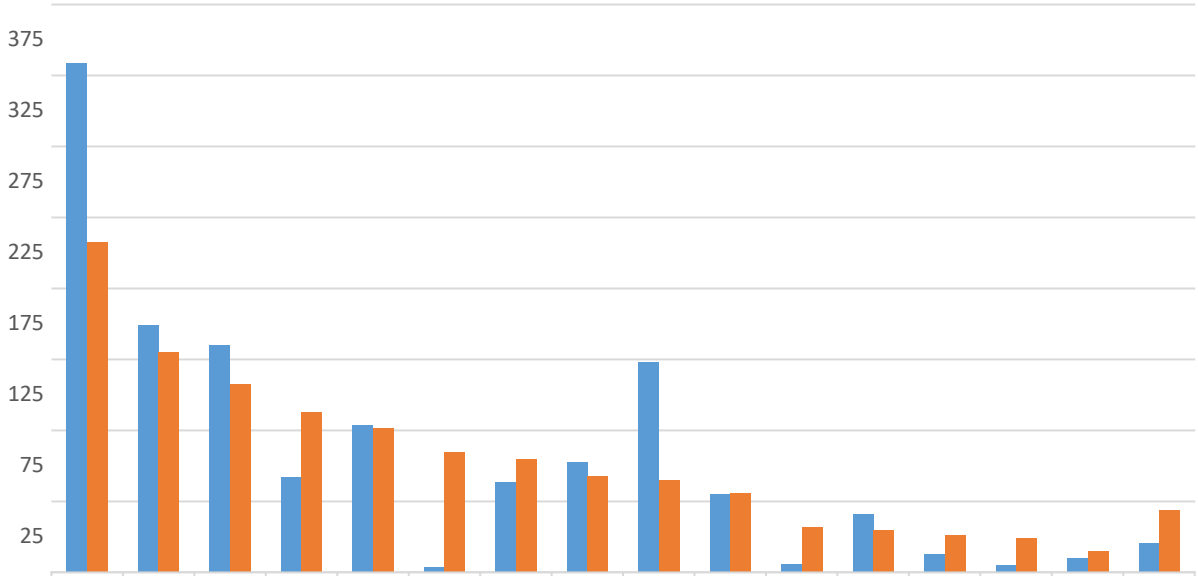
# がん患者へのリハビリテーションの提供

がん治療の目覚ましい進歩により、がんが“不治の病”であった時代も一昔前であり、今や“がんと共存”する時代です。

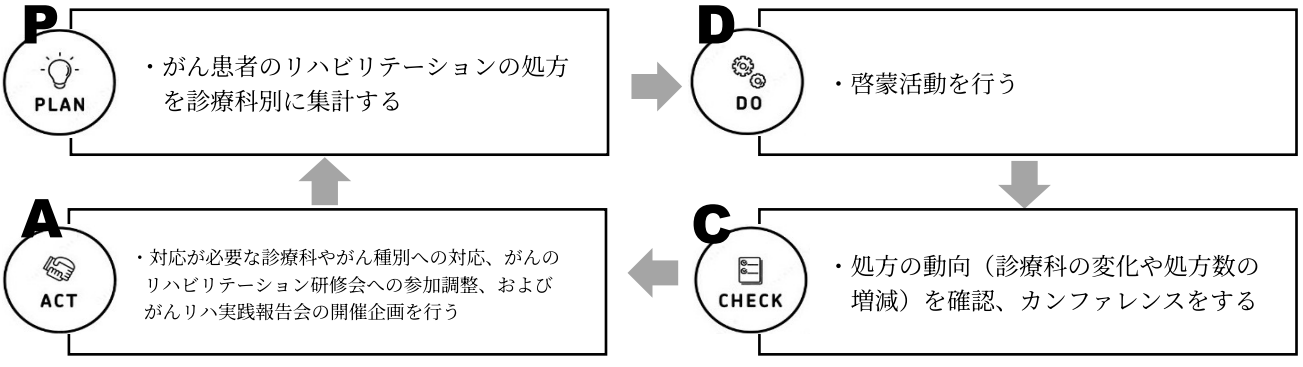
がんのリハビリテーションは、がんやがんの治療による体への影響に対する回復力を高めるほか、残っている体の能力を維持・向上させる効果が期待されます。また、通常のリハビリテーションは何らかの障がいが起こった後に行われるのが一般的ですが、がんリハビリテーションはがん治療によって生じる障がいを防ぐことも重視されているため、各診療科の治療と並行して実施することが特徴です。

当院は地域がん診療拠点病院の指定を受けており、多岐に渡るがん患者さんの治療を行っています。医師や看護師、関係職種と医療チームを組み、多くの診療科におけるがん治療に合わせてリハビリテーションを提供しています。

## がん患者へのリハビリテーション処方




| | 血内 | 外科 | 泌尿 | 呼外 | 呼内 | 脳外 | 放射 | 乳外 | 消内 | 耳鼻 | 神内 | 産婦 | 緩和 | リウ | 形成 | 他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2024 年 | 359 | 174 | 160 | 67 | 104 | 4 | 64 | 78 | 148 | 55 | 6 | 41 | 13 | 5 | 10 | 21 |
| 2025 年 | 233 | 155 | 133 | 113 | 102 | 85 | 80 | 68 | 65 | 56 | 32 | 30 | 26 | 24 | 15 | 44 |



## ■2025年度　実施内容と評価

### 実施内容

・がんリハ研修会に2024年度は呼吸器内科（5東病棟）チームが参加し、2025年度は血液内科（5西病棟）チームが参加
・2025年度のがんリハ実践報告会を開催
・各病棟（診療科）でケースカンファレンスを実施

・2025年度はがんリハ推進WGを発足し、課題整理や啓蒙活動を行っていく

### 評価

・がんリハ処方の集計
　診療科傾向は変わらず、総数でも大きな変わりなし
　呼外、脳外で大きく増加し、血内、消内で減少
・各病棟（診療科）でケースカンファレンスを継続
・2025年がんリハ推進ワーキンググループ発足し、課題整理や啓蒙活動を開始